

大妻女子大学博物館所蔵作品の基礎調査

—ヨーロッパの扇—

The study of the collection of the Otsuma Women's University Museum
—Mainly for the hand fans—

須藤 良子¹, 中川 麻子²
Ryoko SUDO¹, Asako NAKAGAWA²

¹大妻女子大学家政学部ライフデザイン学科, ²大妻女子大学家政学部被服学科

キーワード：装飾品, 扇, バッグ
Key words : Accessories, Fans, Purses

1. 研究目的

まず, 本研究の研究対象が変更になったことをお詫びしたい. 本研究は, 大妻女子大学博物館が所蔵する染織品の基礎調査を行うことが目的であったが, 博物館の収蔵管理の状況を踏まえ, 同じく博物館所蔵の装飾品である扇に研究対象を変更した.

大妻女子大学博物館には大学設立当時からのものであり, 現在まで継続的に収集された作品が所蔵されている. しかし, これらの所蔵作品に関する調査や作品情報の公開については不十分であり, 大学教育の観点からも, 資産活用という面から見ても検討の余地がある. そこで2019年度は, 2017年に大妻女子大学博物館が寄贈を受けたヨーロッパの扇とバッグに関する調査を実施することとした. 博物館の所蔵作品調査を進めることで, 所蔵作品の価値を示し, 将来的に博物館所蔵作品を文化資源として活かせるような情報の蓄積を提案したいと考えている.

2. 研究実施内容

2019年度に調査が実施できたのは, ヨーロッパの扇 35点である. 2019年度の段階で未調査となった扇 3点, バッグ 36点に関しては, 継続調査を行う予定である.

大妻女子大学博物館は, 2017年に竹内葉氏からヨーロッパの扇 38点とバッグ 36点の寄贈を受けた. これらの作品について調査を実施し, 制作技法, 素材, 年代等の基礎調査を行い, 作品の歴史的な位置付けを試みた. 日本国内における類例の装飾品は, 神戸ファッション美術館に所蔵されており, 2019年2月に神戸ファッション美術館において, 類例調査を実施した. またヨーロッパのバッグについては, 京都にある Yuki Pallis コレクションを参考に予定で当館を訪れ, 類例品の確認をしたが, 作品調査については今後実施する予定である.

2-1. 扇の歴史

扇は, 古代の中国で竹や木, 紙などで作られたものが日本にも伝わったとされているが, 木簡などを束ねたものが日本の扇の原型だともいわれている. 日本の扇は木製や竹の骨に和紙を貼った扇面(地紙)の構成と薄いヒノキの板で作られる檜扇とがある. ヨーロッパへは16世紀以降, ポルトガルとの交易が始まり, 日本の扇がヨーロッパへ渡り, 女性の装いを仕上げる必需品になったといわれている.

ヨーロッパで用いられる扇には形状により, ブリセ (brisé) 式, 折りたたみ式, コケード型がある. ブリセ (brisé) 式は薄板状の骨をリボンなどでつなげたもの, 折りたたみ式 (プリーツ, plissé)

は扇面を折りたたむ形状で、折りたたみ式でも円形にひらくものがコカード (cocardo) 型である。

18世紀の王族を中心としたサロンでは、上流階級の女性が華やかな衣装に身を包み、装いの仕上げとして扇を手にすることが女性のたしなみとされていた (図1)。またサロンにおける扇の重要な役割として「扇ことば」が挙げられる。扇を持つ手や動きなどで、相手に自分の意思を伝えるのである。例えば、右手で顔の前に扇を持つと「私についてきて」という意味になり、人目に触れずに男女が言葉をかわし、コミュニケーションをとる道具として重要視されていた。

このように扇はヨーロッパの社交界を彩る装身具として女性たちに愛されてきた。当初は中国製や日本製の扇が使用されていたが、ヨーロッパ独自のデザインや技法も考案され、多くの職人が誕生し、19世紀には庶民層にも浸透した。第1次世界大戦後は、女性のライフスタイルの変化に伴い、その役割も大きく変化し、現在では正装時の装身具、映画や演劇用など、特別な用途として存在している。



図1「ギャルリー・デ・モード」誌が伝える1778年のフランス宮廷の盛装 (リヨン市立図書館 Res,24992,t1.pl43)

2-2. 扇の構造

日本の扇は山折りと谷折りで折りたたまれ、開くと半円の形になり、仰いで風をおこす道具である。暑い夏に涼をとる実用品でもあるが、儀礼や芸能の小道具としても使用されることがある。

親骨と呼ばれる両端の木と中骨と呼ばれる親骨に挟まれた薄く細い木からなり、これらを要とい

う下部の1点で留めて半円状に開閉する。扇の大半の面積を占める半円状の部分が扇面と呼ばれる。

これらの構造を伴い、扇面の形状からプリゼ式と折りたたみ式が誕生した。

2-3. 大妻女子大学博物館所蔵の扇

当館所蔵の扇の主な素材に関しては、象牙を使用したものが17点、べっ甲7点、木7点、貝2点、骨や角1点、不明が1点であった。扇は複数の異素材が使用されていることがほとんどである。例えば象牙だけで扇面を構成し、扇面部分の象牙にリボンを通したもの (図2)、骨に象牙を使用し扇面にレースを使用したものなどがある。べっ甲や貝に関してもこれらを骨に使用し、レースなどの異素材と組み合わせて装飾する扇が多い (図3)。レースにスパンコールなどの装飾が施されていたり (図4)、技巧的に木彫と彩色が施されているものも確認できた (図5)。

2-4. 扇の類例

神戸ファッション美術館は159点のヨーロッパの扇を収蔵している。制作年代は1700年初頭から1900年代中頃までのものである。当館との比較調査の結果、いくつかの類例を見出すことができた。また日本には神戸ファッション美術館以外の扇のコレクションとして、ポーラ文化研究所所蔵の50点の扇も挙げられる。このコレクションについては、『扇物語』¹という書籍と、ポーラ文化研究所のHP上のデータベース検索で作品の詳細を知ることができる。

現在、日本で確認できる作品を基に本館所蔵作品の類例作品について報告する。

表1にある資料番号1, 4, 11は象牙のプリゼ式の扇3点で、親骨部分に彫刻が施されており、同様の形式の扇がポーラ文化研究所 (IDK01021) に収蔵されている。同じ象牙を使用した扇で透かし彫りの細かい模様が彫りこまれた扇は5, 13, 18, 22の4点あり同様の透かし彫りの象牙の扇は神戸ファッション美術館、ポーラ文化研究所にも所蔵されている。

象牙、動物の角、べっ甲などを使用したプリゼ式の扇、資料番号2, 10, 14, 16, 17には小花模様などの彩色が施されている。この5点の扇は骨の先端の形もとがって花卉のように表現されているところが特徴であるが、類例に関しては、神戸ファッション美術館に角に彩色をした扇を見出す

ことができる。

当館の扇にはこれらの他に、レースを用いた折りたたみ式の扇、鳥の羽を用いたもの、「百人の顔」と称されている中国の唐子が沢山描かれた扇もあり（図6）、様々なバリエーションのコレクションだといえよう。

2-5. 扇の制作年代と制作地

当館の扇の制作年代は、No.3の紙に人物図と装飾が描かれ、親骨に象牙を使用し彩色が施されている扇が最も古く、1700年代後半と考えられる。8点は1800年代前半の制作、8点が1800年代中頃、9点が1800年代後半、9点が1900年以降の制作と考えられる。さらに詳しい年代については、当時のファッションプレートとの比較や詳細な類例比較を必要とするため、さらなる調査を要する。

制作地が明らかな作品は「百人の顔」と称される唐子の描かれた扇で、これは中国で作られたものである。象牙の繊細な浮彫の扇は中国製のものもあればヨーロッパで作られたものもある。その他の扇に関しても、確実に制作地を特定するには、他の作例との詳細な比較調査が必要となる。

3. まとめと今後の課題

今年度の研究は、大妻女子大学博物館に所蔵されている、ヨーロッパの装身具である扇の調査を行った。これらは2007年に当館に寄贈された扇38点、バッグ36点の1部であり、今年度調査できなかった作品については、継続して調査を実施する予定である。

今回はコレクションの全体像を把握するための基礎調査であるため、作品自体の調書を作成し、採寸、扇の素材、構造などを調査した。さらに制作年、制作地などを検討するために、神戸ファッション美術館、ポーラポーラ文化研究所の所蔵作品との比較検討を行い、その情報を基に当館の作品についての基礎情報を調査した。

その結果、象牙、べっ甲、骨、角、レースといった多様な素材を使用したヨーロッパの扇の網羅的な作品が収集されていたことが分かり、年代も扇の使用が流行した1800年代のものが多くあったことが判明した。

今後の課題として、今年度に終了しなかった扇とバッグの調査、さらなる作品の比較調査を実施して、当館所蔵のヨーロッパの扇とバッグのコレクションの美術史的な位置づけを行うことが目標である。



図2 No.11 象牙の扇



図3 No.23 象牙の骨に黒いレースの扇



図4 No.24
貝の骨、黒いレースにスパンコールの装飾の扇



図5 No.26 木彫の扇



図 6 No.35 「百人の顔」

表 1 大妻女子大学博物館所蔵 竹内葉コレクション ヨーロッパの扇作品一覧
(作成：藤井暖子・田中亜美/大妻女子大学博物館)

【資料番号】	1	【資料番号】	2	【資料番号】	3
【資料名】		【資料名】		【資料名】	
【文様】	植物	【文様】	植物(葉)	【文様】	人物画・花
【種類】	扇	【種類】	扇	【種類】	扇
【制作年代】	1800年代中頃	【制作年代】	1800年代前半	【制作年代】	1700年代後半
【技法】	プリゼ式	【技法】	プリゼ式	【技法】	折りたたみ式
【素材】	象牙・リボン	【素材】	不明(黄色・透明な板状)	【素材】	象牙・糸・スパンコール・紙 金具(付属品)
【寸法】	(開)横幅35.0cm×縦20.5cm (閉)高さ22.5cm×幅3.7cm	【寸法】	(開)横幅28.6cm×縦16.1cm (閉)高さ16.1cm×幅3.4cm	【寸法】	(開)横幅28.0cm×縦19.0cm (閉)高さ19.1cm×幅6.2cm
【状態】	均等に開かない、汚れ、リボンの変色とほつれ	【状態】	一部装飾剥がれ	【状態】	良い
【修復歴】	-	【修復歴】	-	【修復歴】	-
【備考】	後ろが透けて見える	【備考】		【備考】	中央に男性と女性が座って寄り添っている。扇の周りにはスパンコールが施されており花の絵は左右対称



【資料番号】	4	【資料番号】	5	【資料番号】	6
【資料名】		【資料名】		【資料名】	
【文様】	人物画・花	【文様】	人物画・植物(草花)	【文様】	植物
【種類】	扇	【種類】	扇	【種類】	扇
【制作年代】	1800年代中頃	【制作年代】	1800年代前半	【制作年代】	1800年代中頃
【技法】	プリゼ式	【技法】	プリゼ式	【技法】	プリゼ式
【素材】	象牙・リボン・金属	【素材】	象牙	【素材】	象牙・リボン(赤)
【寸法】	(開)横幅34.0cm×縦20.0cm (閉)高さ21.0cm×幅2.3cm	【寸法】	(開)横幅9.0cm×縦8.5cm (閉)高さ8.0cm×幅2.5cm	【寸法】	(開)横幅33.0cm×縦14.0cm (閉)高さ16.0cm×幅2.5cm
【状態】	やや劣化、リボンに汚れ、ほつれ、接合部剥がれ一部開かず	【状態】	劣化、一部破損して外れている	【状態】	やや良い、赤いリボンのほつれ
【修復歴】	-	【修復歴】	-	【修復歴】	-
【備考】	花は薔薇・向日葵・不明	【備考】	中央にMFの文字 7つの大きな絵となっている	【備考】	



【資料番号】	7	【資料番号】	8	【資料番号】	9
【資料名】		【資料名】		【資料名】	
【文様】	星	【文様】	植物(草花)	【文様】	花・笹・波線
【種類】	扇	【種類】	扇	【種類】	扇
【制作年代】	1900年代初め	【制作年代】	1800年代後半	【制作年代】	1900年代初め
【技法】	折りたたみ式	【技法】	折りたたみ式、象嵌	【技法】	折りたたみ式
【素材】	象牙・ビーズ・布	【素材】	べっ甲・レース	【素材】	レース・スパンコール 象牙(?)
【寸法】	(開)横幅40.0cm×縦21.0cm (閉)高さ23.0cm×幅4.0cm	【寸法】	(開)横幅33.2cm×縦23.3cm (閉)高さ21.5cm×幅5.0cm	【寸法】	(開)横幅24.0cm×縦20.0cm (閉)高さ21.2cm×幅4.6cm
【状態】	やや劣化、ビーズ欠損、染み、中央(裏)骨折れ	【状態】	やや劣化、開きにくい箇所がある	【状態】	やや良い、擦れ(端のレース)
【修復歴】	-	【修復歴】	-	【修復歴】	-
【備考】	左右対称、外側を重ねて縫われている	【備考】		【備考】	



【資料番号】	10	【資料番号】	11	【資料番号】	12
【資料名】		【資料名】		【資料名】	
【文様】	植物(草花)	【文様】	花鳥	【文様】	花
【種類】	扇	【種類】	扇	【種類】	扇
【制作年代】	1800年代中頃	【制作年代】	1800年代中頃	【制作年代】	1800年代後半
【技法】	プリゼ式	【技法】	プリゼ式	【技法】	プリゼ式
【素材】	角・骨・ナイロン(リボン)	【素材】	象牙	【素材】	スパンコール・レース
【寸法】	(開)横幅28.6cm×縦15.6cm (閉)高さ15.4cm×幅2.0cm	【寸法】	(開)横幅38.0cm×縦21.0cm (閉)高さ20.5cm×幅2.4cm	【寸法】	(開)横幅37.5cm×縦20.4cm (閉)高さ20.5cm×幅5.0cm
【状態】	良い、親骨の装飾に欠け、色剥げ、レースほつれ	【状態】	良い	【状態】	良い
【修復歴】	-	【修復歴】	-	【修復歴】	-
【備考】		【備考】		【備考】	



【資料番号】	13	【資料番号】	14	【資料番号】	15
【資料名】		【資料名】		【資料名】	
【文様】	人物画・植物(草花)	【文様】	花	【文様】	花
【種類】	扇	【種類】	扇	【種類】	扇
【制作年代】	1800年代前半	【制作年代】	1800年代前半	【制作年代】	1900年代前半
【技法】	プリゼ式	【技法】	プリゼ式	【技法】	折りたたみ式
【素材】	象牙・リボン	【素材】	象牙	【素材】	べっ甲・機械レース
【寸法】	(開)横幅28.5cm×縦17.5cm (閉)高さ17.4cm×幅2.3cm	【寸法】	(開)横幅27.3cm×縦15.5cm (閉)高さ15.5cm×幅2.0cm	【寸法】	(開)横幅39.0cm×縦22.0cm (閉)高さ22.0cm×幅2.5cm
【状態】	良い	【状態】	やや劣化、親骨欠け	【状態】	やや良い、親骨部分に汚れ
【修復歴】	-	【修復歴】	-	【修復歴】	-
【備考】	扇面23枚	【備考】		【備考】	



【資料番号】	16	【資料番号】	17	【資料番号】	18
【資料名】		【資料名】		【資料名】	
【文様】	花	【文様】	花(薔薇)	【文様】	中国風人物画・草花
【種類】	扇	【種類】	扇	【種類】	
【制作年代】	1800年代前半	【制作年代】	1800年代前半	【制作年代】	1800年代前半
【技法】	プリゼ式	【技法】	プリゼ式	【技法】	プリゼ式
【素材】	べっ甲(?)	【素材】	べっ甲	【素材】	象牙
【寸法】	(開)横幅28.4cm×縦15.0cm (閉)高さ15.3cm×幅3.2cm	【寸法】	(開)横幅28.4cm×縦15.0cm (閉)高さ15.3cm×幅3.2cm	【寸法】	(開)横幅34.2cm×縦18cm (閉)高さ18.6cm×幅3.0cm
【状態】	良い	【状態】	良い	【状態】	やや劣化、ほつれ、破れ 一部扇面欠損
【修復歴】	-	【修復歴】	-	【修復歴】	-
【備考】		【備考】		【備考】	



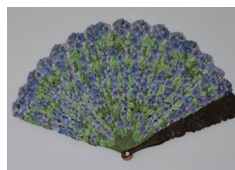
【資料番号】	19	【資料番号】	20	【資料番号】	21
【資料名】		【資料名】		【資料名】	
【文様】	人物画・風景画・透かし彫	【文様】	人物画・植物(草花)	【文様】	花
【種類】	扇	【種類】	扇	【種類】	扇
【制作年代】	1800年代中頃	【制作年代】	1800年代中頃	【制作年代】	1900年代中頃
【技法】	折りたたみ式	【技法】	折りたたみ式	【技法】	折りたたみ式
【素材】	象牙・紙・スパンコール	【素材】	象牙・紙	【素材】	レース・布・象牙
【寸法】	(開)横幅43.0cm×縦24.5cm (閉)高さ24.5cm×幅6.0cm	【寸法】	(開)横幅60.5cm×縦35.0cm (閉)高さ32.0cm×幅3.7cm	【寸法】	(開)横幅42.4cm×縦24.5cm (閉)高さ24.8cm×幅4.0cm
【状態】	折り目に破れ、染み、錆	【状態】	やや良い、擦れ、部分的な 絵の汚れ	【状態】	やや良い、部分的な汚れ、 黄ばみ
【修復歴】	-	【修復歴】	-	【修復歴】	-
【備考】	象牙の骨組みは植物柄の透かし彫り 表:人物画 裏:風景画	【備考】	左右対称	【備考】	



【資料番号】	22	【資料番号】	23	【資料番号】	24
【資料名】		【資料名】		【資料名】	
【文様】	人物画・家・植物	【文様】	花・水玉	【文様】	花
【種類】	扇	【種類】	扇	【種類】	扇
【制作年代】	1800年代前半	【制作年代】	1800年代後半	【制作年代】	1800年代後半
【技法】	ブリゼ式	【技法】	折りたたみ式	【技法】	折りたたみ式
【素材】	象牙・布	【素材】	象牙・レース・布・パール スパンコール	【素材】	貝・レース・スパンコール
【寸法】	(開)横幅39.0cm×縦23.0cm (閉)高さ23.0cm×幅3.0cm	【寸法】	(開)横幅50.0cm×縦26.6cm (閉)高26.6cm×幅2.0cm	【寸法】	(開)横幅45.5cm×縦24.0cm (閉)高さ24.0cm×幅5.0cm
【状態】	やや劣化、破れ、部分的な損傷	【状態】	やや良い、スパンコール欠損、裏面汚れ	【状態】	やや劣化、穴、擦れ、スパンコール欠け、一部骨が折れている
【修復歴】	接合部に補修跡あり	【修復歴】	-	【修復歴】	-
【備考】	人の暮らしの物語が展開されている	【備考】	骨の透け感有	【備考】	



【資料番号】	25	【資料番号】	26	【資料番号】	27
【資料名】		【資料名】		【資料名】	
【文様】	植物(草花)	【文様】	花	【文様】	
【種類】	扇	【種類】	扇	【種類】	扇
【制作年代】	1800年代後半	【制作年代】	1900年代前半	【制作年代】	1900年代前半
【技法】	折りたたみ式	【技法】	ブリゼ式	【技法】	折りたたみ式
【素材】	貝・レース・ビーズ	【素材】	木(彫刻、彩色)	【素材】	ラッセルレース・プラスチック
【寸法】	(開)横幅43.5cm×縦25.0cm (閉)高さ25.0cm×幅4.0cm	【寸法】	(開)横幅42.8cm×縦22.4cm (閉)高さ22.7cm×幅3.0cm	【寸法】	(開)横幅45.0cm×縦24.5cm (閉)高さ24.5cm×幅3.0cm
【状態】	やや劣化、破れ	【状態】	やや良い、閉じ切らない	【状態】	
【修復歴】	-	【修復歴】	親骨固定	【修復歴】	-
【備考】		【備考】		【備考】	



【資料番号】	28	【資料番号】	29	【資料番号】	30
【資料名】		【資料名】		【資料名】	
【文様】		【文様】	唐草模様	【文様】	花
【種類】	扇	【種類】	扇	【種類】	扇
【制作年代】	1800年代後半	【制作年代】	1800年代後半	【制作年代】	1800年代後半
【技法】	折りたたみ式	【技法】	折りたたみ式	【技法】	折りたたみ式
【素材】	スパンコール・レース	【素材】	べっ甲・レース(黒)・スパンコール	【素材】	布・べっ甲(?)・スパンコール
【寸法】	(開)横幅45.0cm×縦24.0cm (閉)高さ24.5cm×幅5.0cm	【寸法】	(開)横幅43.0cm×縦24.0cm (閉)高さ24.5cm×幅4.0cm	【寸法】	(開)横幅36.6cm×縦23.7cm (閉)高さ23.7cm×幅4.0cm
【状態】	良い、一部上の方が透けている	【状態】		【状態】	やや劣化、部分損傷、ほつれ、スパンコールが落ちかけている
【修復歴】	-	【修復歴】	-	【修復歴】	-
【備考】		【備考】	文様にスパンコール、べっ甲部分にも銀の文様	【備考】	



【資料番号】	31	【資料番号】	32	【資料番号】	33
【資料名】		【資料名】		【資料名】	
【文様】	人物画	【文様】	鳥	【文様】	花・鳥
【種類】	扇	【種類】	扇	【種類】	扇
【制作年代】	1800年代後半	【制作年代】	1900年代初め	【制作年代】	1900年代前半
【技法】	折りたたみ式	【技法】	プリゼ式	【技法】	折りたたみ式
【素材】	木・布(絹)	【素材】	鳥の羽(黒・赤・緑)べっ甲(?)	【素材】	黒レース・黒リボン
【寸法】	(開)横幅61.0cm×縦36.5cm (閉)高さ35.0cm×幅5.5cm 付属品14.5cm	【寸法】	(開)横幅30.0cm×縦49.5cm (閉)高さ30.0cm×幅16.0cm	【寸法】	(開)横幅64.0cm×縦37.0cm (閉)高さ36.0cm×幅6.0cm
【状態】	やや劣化・擦れ・ほつれ 折り目に絵のはげ	【状態】	やや劣化、一部欠損(布の汚れ)	【状態】	良い
【修復歴】	-	【修復歴】	-	【修復歴】	-
【備考】	表:馬と人間 裏:踊る4人 赤と黄色の紐、REGUERD Gの文字	【備考】		【備考】	



【資料番号】	34			【資料番号】	35
【資料名】				【資料名】	
【文様】	人物画・植物(草花)			【文様】	中国風人物画
【種類】	扇			【種類】	扇
【制作年代】	1900年代初め			【制作年代】	1800年代中頃
【技法】	折りたたみ式			【技法】	折りたたみ式
【素材】	べっ甲・絹・和紙			【素材】	象牙・絹・和紙
【寸法】	(開) 横幅51.0cm × 縦26.5cm (閉) 高さ27.5cm × 幅4.5cm			【寸法】	(開) 横幅31.8cm × 縦27.0cm (閉) 高さ27.5cm × 幅4.0cm
【状態】	良い			【状態】	良い
【修復歴】	-			【修復歴】	-
【備考】	箱(閉) 縦33.7cm 横幅6.3cm 高さ4.5cm			【備考】	箱(閉) 縦31.3cm 横幅6cm 高さ4.5cm



謝辞

大妻女子大学博物館所蔵作品の調査をご快諾くださった大澤清二館長はじめ、是澤博昭先生、下田敦子先生、学芸員の藤井暖子様、田中亜美様に心から感謝申し上げます。

¹ 編著津田紀代『扇物語』2008年、ポーラ文化研究所

参考文献

徳井淑子『図説 ヨーロッパの服飾史』2010年、河井書房新社